

貝塚博物館紀要

第50号

巻頭言

千葉市内主要貝塚資料分析報告（令和5年度）

西野 雅人 1

国史跡月ノ木貝塚について -立会調査報告と過去の調査成果-

濱 秀輝・西野 雅人・服部 智至 23

関東地方における縄文時代前期の拠点集落の消長と貯蔵穴の関係 -前期後半を中心として-

松田 光太郎.....45

千葉市台門貝塚出土の壺形土器について

折登 亮子.....67

「縄文土器の製作技法を探る」(3)成形 -製塩土器に見る“型起こし成形”の可能性-

戸村 正己.....79

房総半島における初期農耕開始期の生業に関する検討

小林 嵩.....99

加曽利E式土器資料集成研究⑤ -内房地域編-

渡邊 玲..... 115

2024年3月

千葉市立加曽利貝塚博物館

貝塚博物館紀要執筆要項

1. 割付

版面は、A4判、10.5pt で47文字×37行×1段組みである。図表・写真図版は、最大で縦238mm×横174mm（キャプションを含まない）である。図表・写真図版の割付は、原則1段組みとし、やむを得ず変則的な割付を行う場合は、横81.5mmの2段組みのみ可能とする。

2. 原稿提出

文字原稿は、原則としてテキスト形式あるいはMicrosoft word等にて作成した電子ファイル形式とする。挿図・写真図版は、原則として電子ファイル形式として、ファイル名をキャプションとする。電子ファイルはメールで送信するか、又は電子媒体で送付する。原稿締切りは、12月24日までとする。

3. 文章表記

(1)本文は、常体を基本とする。本文中の数字は、1桁は全角、2桁以上は半角とする。

(2)度量衡の単位はcm、kg、㎡、ℓ等のように記号を、数量は算用数字を使用する。

(3)年代は西暦を基本とし、元号は、2022（令和4）年のように表記する

4. 見出し

見出しは、1. 2. 3. →(1)(2)(3)→①②③→a b cの階層を用いる

5. 註及び参考文献

(1)註は、半角で(1)、(2)…の番号を付して、文章末尾の参考文献の前に一括して記載する。

(2)本文中の参考文献は、(加納2000a:37)または(加納2000a:37-41)のように表記し、その出典については、下記の例に従い文末にまとめる。参考文献の配列は50音順とする。

例)加納 実 2000a「武士遺跡出土の関西系土器群の再評価」『貝塚博物館紀要』27号
杉原 荘介編 1977『加曾利北貝塚』中央公論美術出版

6. 図表・写真図版

(1)挿図および挿表は出典を明記する。但し、オリジナルの図表の場合はこの限りではない。

(2)写真図版の出典は(1)に準ずる。

7. 校正

執筆者校正は初校のみとし、再校以降は編集担当者が執筆者と協議し行う。

附則

この要項は、令和5年4月7日から施行する。

貝塚博物館紀要 第50号

2024年3月 発行

編集・発行 千葉市立加曾利貝塚博物館
千葉市若葉区桜木8丁33番1号
TEL 043(231)0129

印刷 有限会社アイシー製本印刷